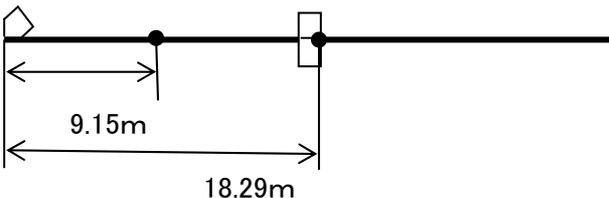
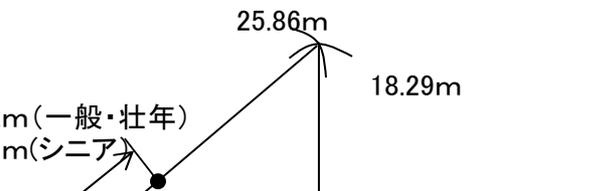
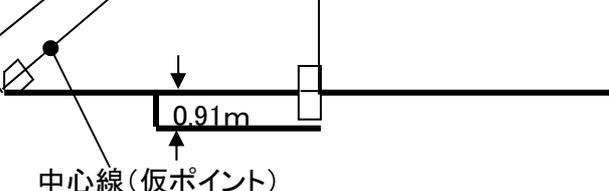
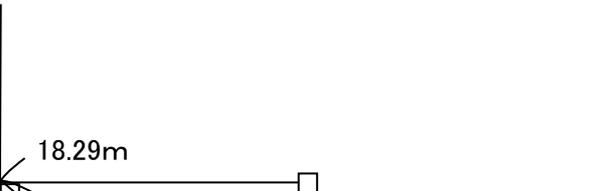
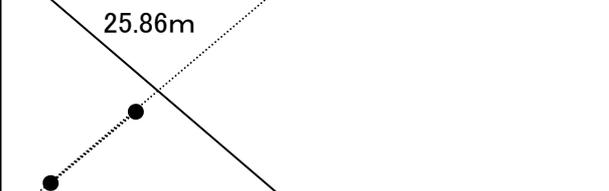
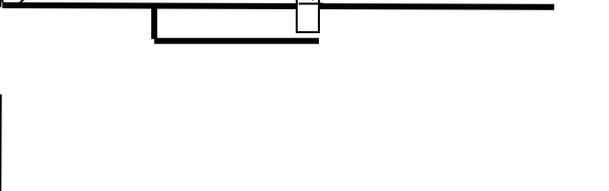
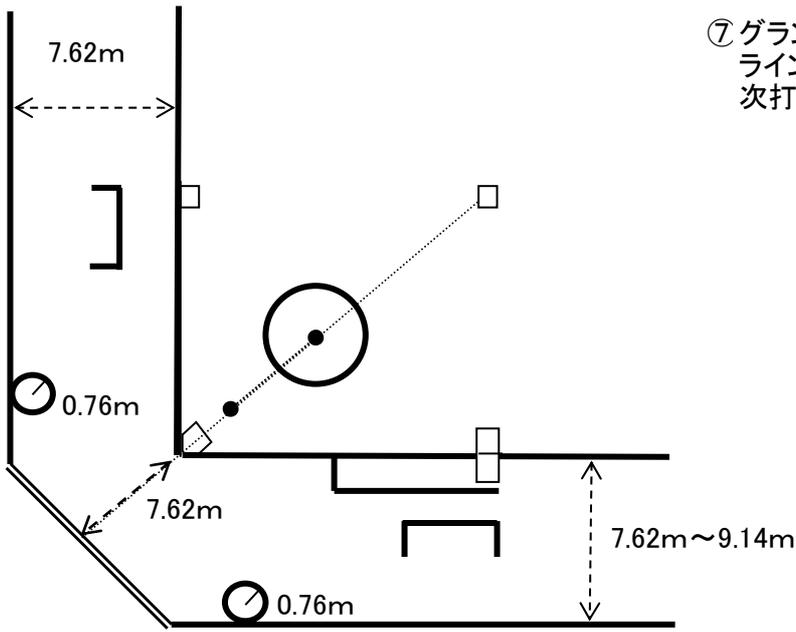


# 競技場(グランド緒線)の設定

競技者必携の「A」を採用する

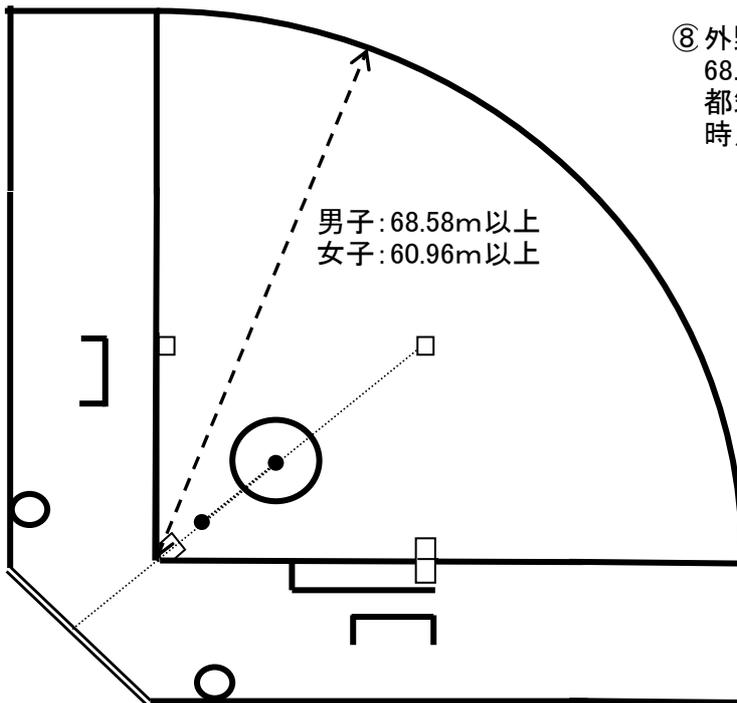
- ①  ① 本塁の位置を決める
- ②  ② その本塁の位置から1塁線のファールラインを引く。そのとき、本塁から、9.15m(3フットラインの位置) 18.29m(1塁ベース位置)、にそれぞれポイントを差す。
- ③  ③ 本塁から2塁近辺で25.86mと1塁から18.29mとの交差を2塁とする。そのとき、本塁と2塁とをむすんだとき、本塁から投球距離(14.02mまたは13.11m)のポイントを書くと同時に、本塁近辺で中心線を仮想線として引いておく(仮ポイントを差す)。この中心線は、本塁周辺を引くときに使用する線(ポイント)である。
- ④  ④ 次に、本塁と2塁から、それぞれ18.29mの3塁近辺での交点を3塁とする。ここで、一応、1塁と3塁との間が、25.86mであることを確認しておく
- ⑤  ⑤ 1塁と3塁のコーチャーボックス(各ファールラインから3.66m離れ、幅が4.57m、奥行を0.91m)を引く
- ⑥  ⑥ ピッチャープレートのホーム側縁中心点を中心としたピッチャーサークル(2.44m)を引く。

⑦



⑦ グラウンドルールに伴う競技場外観(ボールデッドライン)を引く。  
次打者サークル(0.76m)を引く

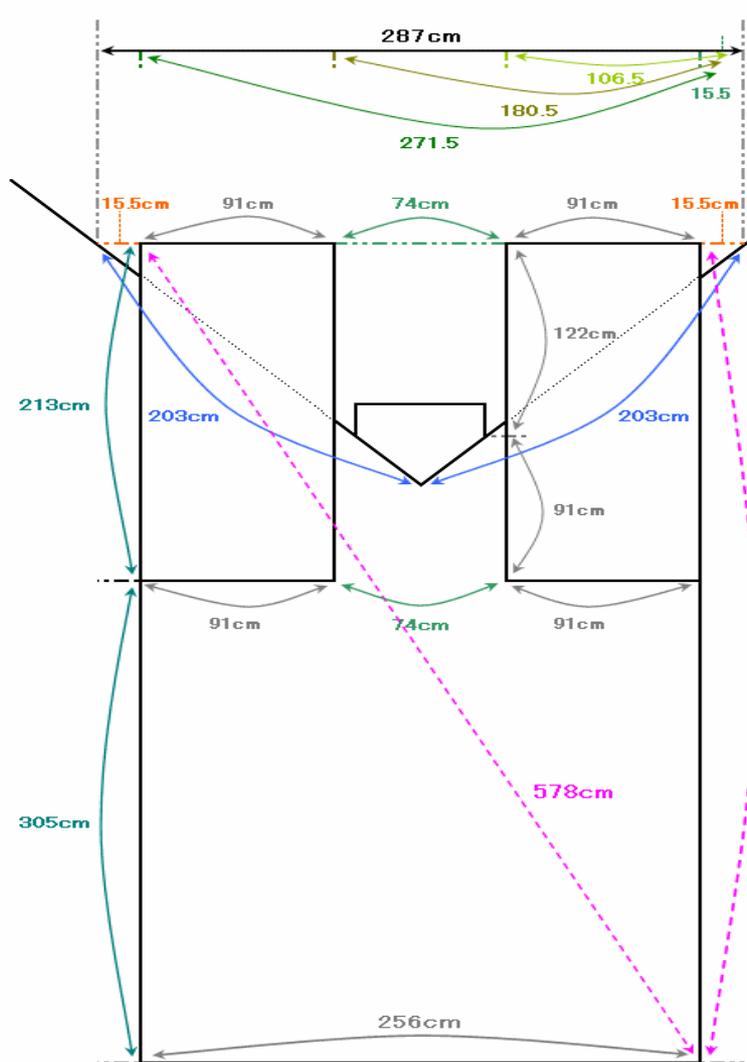
⑧



⑧ 外野フェンスが無い会場では、フェンス(本塁から68.58m以上)で作成します。  
都筑区では、①でホームベース位置が確定した時点で並行で作成します。

男子: 68.58m以上  
女子: 60.96m以上

# バッターボックスの作り方



- ① ホームベースの頂点からフェアライン上の203cmのところに、左右それぞれポイントをとる。  
※この2点間が287cmになればよい。
- ② ①のポイント間を結んだライン上に、バッターボックス前側のポイントをとる。  
端から15.5、106.5、180.5、271.5cmのところに4ヶ所とればよい。
- ③ ②のバッターボックス前側の、左右それぞれ一番外側のポイントから、後方に578cmと518cmが交差するポイントをとる。これがキャッチャーボックス後側のポイントとなる。
- ④ 左右それぞれ一番外側の縦ライン上に、前から213cmのポイントをとる。結んだ直線上に、端から91cm・74cm・91cmとなるポイントをとればバッターボックスが完成する。

0.00m 5.18m 5.78m 2.56m  
 0.00m 5.18m 10.96m 13.52m

